修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　早川泰雄
東京都千代田区西神田
2丁目8―7（顕ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3―36337

校外学習の実態

全修協が全国中・高校調査

貸切りバスで輸送

〈1〉宿泊は公共施設を利用

財団法人・全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）では、指導の改善に資するために、修学旅行以外の校外学習について、全国の公・私立の中学校・高校を対象に実態調査を行った。この調査は、校外学習を十三種類の実施形態に分け、それぞれ①実施期間②輸送方法③宿泊施設④旅行費用⑤目的地⑥参加方法⑦旅行担当者などの各項目について調査を行っている。回答率は公立中五〇％（三九七校）、公立高六〇％（四六五校）、私立中三三％（一七六校）、私立高四六％（五六八校）となっている。

一、校外でのオリエンテーション

公・私立の中学・高校ともに一年生で四月～五月頃実施が多いのは入学期のオリエンテーションや学級づくりを目標としているものと思われる。泊数は中学・高校とも一泊三日までが多く、私立では泊数がさらに延びる学校も若干ある。輸送は公私立とも、貸切バス利用が圧倒的に多く、公立の場合徒歩の割合もかなり多くなっている。費用は二万円未満までが、公立とも多いが、二万～三万円未満になると、私立中学・高校の割合が多くなっており、また各学年で実施されている。輸送は貸切バス利用が、公・私立とも多く、国鉄、私鉄がこれに次ぎ徒歩は公立の中学・高校だけに見られる。費用、宿泊施設について公・私立を対比すると、校外でのオリエンテーションや、宿泊訓練と同じような傾向がみられる。

二、宿泊研修

泊数は二泊三日まで、公・私立とも多いが、三泊四泊四日以上になると私立の中学・高校の実施が多くなっている。公立では、中学・高校とも一、二年実施が多く、三年は少い。私立で三年に少い。これは受験などの関係もあるのではないだろうか。私立校では各学年で行われている。時期は公・私立とも四月～十月に及んでいる。輸送は貸切バス利用が最も多く、国鉄、私鉄がこれについている。費用は二万円未満までは、公・私立とも多いが、二万円～三万円未満になると、私立中学・高校の割合が多くなっており、また各学年で実施されている。輸送は貸切バス利用が、公・私立とも多く、国鉄、私鉄がこれに次ぎ徒歩は公立の中学・高校だけに見られる。費用、宿泊施設について公・私立を対比すると、校外でのオリエンテーションや、宿泊訓練と同じような傾向がみられる。

（つづく）

風紋

このところようやく紅葉のシーズンに入った。京洛の地はどこも観光客が溢れている。日本人は元来好奇心が強く、旅好きな民族である。それは昔も今も変わらぬようだ▼宮本常一氏も言っている。江戸時代、富士山、御嶽山、出羽三山などの山岳信仰詣でに年間五十万人、要する日数五日として二百五十万人日、伊勢詣でに四十万人、二十日として八百万人日、八十八ケ所などの巡礼の旅、湯治の旅に二千万人、滞在日数二千万人日、計三千五十万人日、人は旅に出ている。当時の概算人口三千万人に対してである。しだいに人口は増え続く▼現在、日本の人口一億人として旅行者は一億八千万人とすれば、昔も今もほぼ同じ比率となる。さらに平均余命が延び、週休二日制がすすみ、十五歳から六十四歳までの人口が増加して、年三回旅行するとすれば、二十年後は四億人日に増大することになる▼また江戸時代は「かわいい子には旅させよ。憂いも悲しみも旅で知れ」の共通認識があったが、現代は様変わり、好奇心、見聞知識欲、自由解放、快楽への旅と色とりどりである。また古人漂泊のロマンにあこがれ、集団旅行中のひとり旅のイメージを味わおうと望んでいる。当協会プランの旅のアンケートにもそれが端的に現われている。その土地の人と語り、郷土料理を食べ、時間にしばられず、余裕のある史跡等の見学、美しい自然の中での自由散策、快適な乗物などひとり旅の快適な面のみを味わおうと望んでいる。まことに今昔の感あり▼いずれにしても将来四億人日にも及ぶ旅行者を考えた時、現代人の志向が多様化する中で、各年齢層のニーズに対応しながらも生涯教育の立場からしては南北に長くのびた列島である日本国土の自然と文化を理解するとともに他の国の民族とその文化を知ることによって、グローバルな理解と判断ができるのではなかろうか。それには旅が最適な糸口になるといえよう。（S）

地区会議開催

全修協

11月5日、東北を皮切りに

全修協の本年度地区会議は十一月五日の東北地区を皮切りに開かれる。議題は①五十七年度研修旅行の実施計画②修学旅行の研究調査活動などで、山本種一理事長、各役員、前田事務局長、各支部長、友誼協力団体役職員が出席する。日程は次の通り【東北】十一月五日（木）、宮城県秋保【北陸・東海】十一月十六日（月）、福井県芦原【中国・四国】十一月二十四日（火）、山口市【九州】十一月二十五日（水）、福岡市【関東】十二月三日（木）、東京。開会時刻はいずれも午後二時。

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

今年度・修学旅行の基準

三地区代表者会議開く

各地区修学旅行実施についての情報交換②上記の課題解決に関する研究協議を行う。

また関東地区中学校修学旅行委員会（会長＝鯉淵一郎・水戸市立第二中学校長）では、十一月十二日（木）から二日間、群馬県水上町で①五十八年度修学旅行新幹線専用電車利用の割引案作成②修学旅行実施上の情報交換③玉原発電所見学が行われる。

関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会（会長＝鯉淵一郎氏・水戸市立第二中学校長）の秋期代表者会議は十一月二十六日（木）から二日間にわたって、静岡県浜松市で開かれる。議題は①第二中学校長）では、十一月十二日（木）、宮城県秋保【北陸・東海】十一月十六日（月）、福井県芦原【中国・四国】十一月二十四日（火）、山口市【九州】十一月二十五日（水）、福岡市【関東】十二月三日（木）、東京。開会時刻はいずれも午後二時。

方面は自由に選出

四、五泊が大部分占める

高等学校（つづき）

大阪＝①四泊五日②規定なし③規定なし④規定なし。

大阪市＝①四泊五日②四万五千円③南九州、東北④学級数の一・五倍に二を加える。

兵庫＝①一〇五時間以内②四万六千円以内③信州、九州が多い④三十名につき一名。

神戸市＝①一〇五時間以内②四万六千円以内③規定なし④規定なし⑤旅行方面その他は、学校独自で計画する。

鳥取＝四泊五日以内②保護者の負担過重とならない範囲③日数、経費、安全及び学校の実態を考慮して選定④三〇名まで二名、二〇名増すごとに一名を加える⑤車船中泊は一泊は車船中泊を認める）②規定なし③四国、九州、本州（東北地方を除く）④一五名～三五名程度に教師一名。

高知＝①五泊六日を限度②父母負担が過重にならないようにする③限定できない④三〇名につき一名を基準とし、一〇〇名につき一名を加える（校長、養護は枠外）⑤車船中泊は泊数に含む。

愛媛＝①五泊六日②五万円以内③関東、九州、信州④三〇名に一名、最低三名⑤車中泊は宿泊に含む。

福岡＝①五泊六日②六万円③関東、甲信越方面④学級数の一・五倍⑤新幹線利用の場合は一泊減となる。

北九州市＝①四泊五日②六万円（基準額）③関東、中部④学級数の一・五倍。

福岡市＝①五泊六日②五万円以内③関西、関東、中部④学級数の経済的負担を考慮すること③基準なし④三〇名まで二名、三〇名増すごとに一名増⑤車船中泊は二回までとする。

岡山＝①四泊五日以内②保護者の負担過重とならないようにする③規定なし④三〇名につき三名、一～二五名増すごとに一名増。

徳島＝①五泊六日（五泊のうち一泊は車船中泊を認める）②規定なし③四国、九州、本州（東北地方を除く）④一五名～三五名程度の経済的負担を考慮すること③基準なし④三〇名まで二名、三〇名増すごとに一名を加える。

広島＝①三泊四日②五万円以内③関東、信州、北陸方面④三〇名に対し、引率者一名の割合に二名○名を引いて四〇で割り二を加える⑤車船中泊は宿泊に含む。

島根＝①五泊六日以内②保護者一名、養護担当の職員一名⑤車船中泊は認められない。

山口＝①一〇時間以内②四万七千円以内③関東以西、九州（沖縄は含まず）④三〇名まで二名、三〇名をこえる時は生徒数から三〇名を引いて四〇で割り二を加える⑤車船中泊は宿泊に含む。

広島市＝①三泊四日以内②四万八千円以内③特に規定なし④生徒④三〇名につき一名に引率責任者養護教諭を加える。

鹿児島＝①六泊七日以内②五万円以内②規定なし③関東以西④校長またはそれに代る責任者が必ず引率責任者になること。女子生徒参加の場合は必ず女子教諭を引率者に加え、できれば学校医または養護教員を加えること。

沖縄＝①六泊七日②規定なし③四九州、関西、関東③三〇名につき一名⑤原則として船泊を利用する。ただし学校事情を考慮し片道は航空機利用ができる。その際校長は、保護者並びに関係機関と協議のうえ決定する。

香川＝①四泊五日以内②父母負担の軽減に努める③関東地方以西の一・五倍。

佐賀＝①一三時間以内（五泊六日）②規定なし③関東、関西④三〇名について一名以上。

長崎＝①五泊六日②関東六万円以内、関西五万五千円以内③関東関西④三〇名につき一名、少なくとも二名を下らない。

熊本＝①五泊六日以内②四万九千円以内③関東、関西、沖縄④学級数に応じて定める。

大分＝①五泊六日以内②保護者の経済的負担の過重にならないように③関東以西④五〇名未満二～三名、五〇名～一〇〇名＝三～五名、一〇〇名～一五〇名＝四～六名、一五〇名～二〇〇名＝五～七名、二〇〇名～二五〇名＝七～九名、二五〇名～三〇〇名＝八～一〇名、三〇〇名～四〇〇名＝一〇～一二名。

宮崎＝①六泊七日②二万五千円以内③主に関西、関東方面④一五名～三〇名について一名、盲、ろう養護学校は五名につき一名。

鹿児島＝①六泊七日以内②五万円以内②規定なし③関東以西④校長またはそれに代る責任者が必ず引率責任者になること。女子生徒参加の場合は必ず女子教諭を引率者に加え、できれば学校医または養護教員を加えること。

沖縄＝①六泊七日②規定なし③四九州、関西、関東③三〇名につき一名⑤原則として船泊を利用する。ただし学校事情を考慮し片道は航空機利用ができる。その際校長は、保護者並びに関係機関と協議のうえ決定する。

研修旅行写真コンクール発表　2面に

信頼される旅づくり

こんな笑顔、残してあげたい。

修学旅行

近畿日本ツーリストは、生徒のみなさんに素晴らしい修学旅行を…の願いから、教育映画の制作に取り組んでいます。現在のライブラリーは、中学・高校生を対象とした『学習の旅シリーズ』全15篇。そして社会・文化・歴史・教育・観光・自然など、幅広い分野から制作された『ツーリスト映画シリーズ』全15篇（国内10・海外5）。いずれも修学旅行の事前指導、学習教材としてご活用いただけます。ツーリストはこのような文化活動を通じて、教育・一般社会のみなさまにお役に立つよう、努力を続けています。

⊙ツーリスト映画リスト　※修学旅行の事前指導や学習教材に、どうぞお気軽にご利用ください。

学習の旅シリーズ			ツーリスト映画シリーズ（国内）			ツーリスト映画シリーズ（海外）		
題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞
北海道・東北	20分		北海道	29分	文部省選定	ヨーロッパの旅	30分	日本産業映画奨励賞（第14回）
北海道・道南	20分	文部省選定	京都の庭園	26分	文部省特選			
北海道	20分		京都の川	34分	文部省特選・芸術祭大賞（46年）	大いなるアメリカ	30分	
東北・日光	15分	文部省選定				アメリカ西海岸の旅	30分	
東京	15分		大和の塔	38分	文部省選定	ハワイの休日	33分	
富士箱根	20分	文部省選定	大和の石	25分	文部省選定・文部大臣賞	東南アジア	30分	
信州	20分	文部省選定						
京都	20分	文部省選定	大和の道	25分	文部省選定・文部大臣賞			
奈良	20分	文部省選定						
伊勢志摩	22分		南紀	28分				
山陽山陰	23分	文部省選定	瀬戸内海	28分	文部省選定			
九州やまなみ	20分	文部省選定	沖縄の心わうっ（食器の文化）	31分	文部省選定			
九州西海	20分	文部省選定		41分				
南九州	20分	文部省選定						
光あふれる沖縄	21分							

近畿日本ツーリスト
㊞運輸大臣登録一般旅行業第20号

入賞作品きまる　研修旅行写真コンクール

推薦作品に佐藤さん

北海道知事賞　徳重さんが獲得へ

財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）企画、主催による夏季教職員研修旅行行事のひとつとして行っている参加者による写真コンクールは、今年で第二十五回、応募作品は四百十六点に達し、その審査会が十月十四日、全修協大阪事務所で開かれ、長時間にわたる審査の結果、推薦には九州一周コース、佐藤正巳氏の「なごやかな研修」、特選には沖縄本島と石垣宮古コース、坪井平次氏の「お客待ち」がそれぞれ選ばれた。また、北海道方面各コース応募作品のため特別に設定されている北海道知事賞には、北海道一周Aコース、徳重勉氏の「夏の旧道庁」、北海道観光連盟賞には利尻島と礼文島コース、川田勇氏の「離島の別れ」が栄冠をかち得た。入賞のみなさんにお祝いを述べるとともに、惜しくも入賞を逃された方々にはぜひ来年を期していただきたい。審査員の講評と入賞者は次のとおりである。（敬称略）

入賞のみなさまへ

推薦、特選、北海道知事賞、北海道観光連盟賞、入選、佳作に入賞されたかたは、その作品のネガを〒101東京都千代田区西神田二―八―七（幡ビル内）財団法人・全国修学旅行研究協会写真コンクール係へお送りください。後日、賞状、賞金、記念品を直接ご本人あてにお送りいたします。

総評

研修旅行のように、グループや団体での旅行では、どうしても時間や撮影の場所に制約をうけ、スナップ的なものが多くなるのはやむを得ないことであろうが、そんななかで、あと十数歩、わずか数歩でも被写体に近づき、あるいは遠のいてみると、思わぬ良いアングルを得られることがある。今回の応募作品のなかにも、このような努力をされたと考えられる写真がだいぶ見うけられたことは嬉しいことであった。

人物を狙った作品も例年のようにたくさんあり、良い写真が増えてきているが、被写体の人物の表情や動作の表現にひと工夫ほしい。

人間の視界の範囲と、カメラのファインダーに収まる広さとは当然差があるということも念頭においてほしい。眼で見える限りのものすべてを画面に入れようとするのでなく、なにを撮り、何を表現するかを考えて、そこに向ってファインダーをのぞきシャッターを切ることである。

本年度研修旅行写真コンクール推薦作品・九州一周コース「なごやかな研修」佐藤正巳さん（岩手県）

推薦（賞状と賞金一万円）

▼「なごやかな研修旅行」佐藤正巳（岩手県）

【評】研修旅行の途次、講師の説明を聞いているところを狙ったものと思うが、よほど話が面白いのか、みんなニコニコ楽しそうである。欲をいえばなんでニコニコしているのか、講師の表情や情景がある程度組み入れられていたらなおよかった。

特選（賞状と賞金七千円）

▼「お客待ち」坪井平次（三重県）

【評】南国の強い陽射しを避けた木陰で次の観光客を待つ記念写真屋を狙ったところ。ただし、どの人物も漫然とした感なので、題名からして手前の人達の表情がほしかった。わずかに左端の女性が半身になって客の来る方?を見ていることで救われる。

北海道知事賞（賞状と記念品）

▼「夏の旧道庁」徳重勉（鹿児島県）

【評】濃い緑に囲まれた赤レンガ造りの重厚な旧北海道庁の建物と、その背後の白っぽい近代的ではあるが軽々しい感じのビル群とのコントラストによって、旧道庁がいっそうドッシリとして浮き出ている。できればもう少し低い所から、背後の風景にとらわれないで撮影したら、画面も引き締ってさらによい写真になったろう。

北海道観光連盟賞（賞状と記念品）

▼「離島の別れ」川田勇（栃木県）

本年度研修旅行写真コンクール北海道知事賞作品、北海道一周Aコース「夏の旧道庁」徳重勉さん（鹿児島）

【評】やっとやって来たさい果ての島の旅も束の間、いまはもう船上の人として去らねばならない。惜別の情抑え難いなかでシャッターを押す指先が震えたことであろう。宿の人達の、出て行く船に精いっぱいの別れを惜しんでいる様子がよくわかる傑作。左上のロープと思われる白い影が少々目障りではあるが、全体によいシャッターチャンスをつかんでいる。

入選（賞状と賞金三千円）

▼「函館の朝市」清原貞雄（東大阪市）

▼「無名異焼と僕」林ヨシ（山口市）

▼「琴平参拝」藤正巳（岩手県）

▼「最上川白糸の滝」藤木清子（大阪府）

▼「足摺岬」田口宗顕（福島県）

▼「輪島朝市」土屋たつ（千葉県）

▼「川下り傘はいかが」鵜沢芳枝（千葉県）

▼「海女出動」松井君人（長崎市）

▼「おんぶ地蔵」鵜沢芳枝（千葉県）

▼「観光牛車」下坂和夫（岩手県）

佳作（賞状と記念品）

▼「尾瀬ケ原と燧岳」金野清治郎（岩手県）

▼「鬼ケ城風景」田中信之（富山県）

▼「激暑！鍋料理に挑戦」松下多加志（大阪府）

▼「最上川下り」鈴木純孝（大阪府）

▼「撮影ラッシュ」佐藤正巳（岩手県）

▼「最上川白糸の滝」藤木清子（大阪府）

▼「足摺岬」田口宗顕（福島県）

▼「輪島朝市」土屋たつ（千葉県）

▼「川下り傘はいかが」鵜沢芳枝（千葉県）

▼「海女出動」松井君人（長崎市）

▼「おんぶ地蔵」鵜沢芳枝（千葉県）

▼「観光牛車」下坂和夫（岩手県）

アンケートから——ことしの研修旅行

北海道一周コース

たいへん暑い季節の長旅行でしたが、添乗員さんの至れり尽くせりのお世話で、無事に楽しく有意義な旅行をさせていただきました。ありがとうございました。（福江健一郎・山口）

今回は一人旅でしたが、同じ教員の方や、九州の方などともお話ができ、気持よく六日間を過ごさせていただきました。また東京の方たちと一諸で、楽しい毎日でした。（富塚安子・千葉）

講演もよく、バスガイドさんも大変なベテランで、私達はあきることなく、楽しい旅行を続けることができました。（速水幹枝・三重）

退職したらこんな計画があることを知りませんでした。当チラシも学校のみの掲示で、退職した人は知らなかった。一人一人連絡はむずかしいでしょうが、何らかの方法で知らせて欲しい。（有森はる子・佐賀）

北海道の有名な所は殆ど行ったので、次は車か自転車で、えりも岬、知床、稚内など、まだ行っていない所を回りたい。（川合康之・三重）

摩周湖、美幌峠の景観が素晴しかった。（小川恵　山口）

利尻・礼文島コース

なかなか来ることのできない遠隔地でもあるが、スケジュールの中に、道内観光をもう一、二点加えると、旅行に広がりを持つと思います。（田村千鶴子・東京）

台風のため礼文島へ渡れなかったのは残念でしたが、利尻島の大自然は大変よかった。（麦倉善幸・栃木）

奥東北コース

角館の見学と館内の説明は親切でよかった。（稲葉静枝・埼玉）

恐山・森勇男先生のユーモアなお話しは印象を深くしました。（武田つや・埼玉）

見学地の選定もよい。第二日の円覚寺、長勝寺、岩木山の説明も大変よかった。（村井英子・東京）

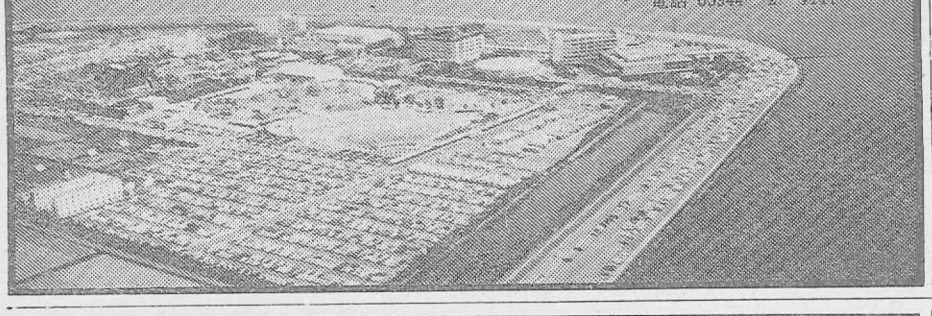
みちのく一周

郷土の芸能や料理に接することができてよかった。毛越寺の住職の説明も有意義でした。（小林他二名・茨城）

修学旅行の新しい宿泊地

木曽・長良・揖斐の三大河川が伊勢湾に注ぐ…
風光明媚、健全な環境の一大施設です。

三重県立水郷自然公園
クラン・スパー
長島温泉
三重県桑名郡長島町
電話 05944－2－1111

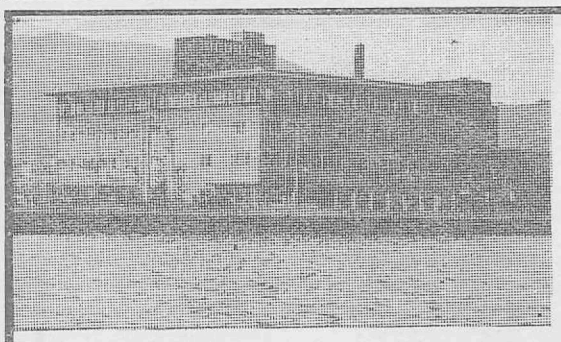


思い出の修学旅行
印象的な——
瀬戸内海の船旅。

フェリー・こがね丸（7,200t）

●阪神／別府直行・大型フェリー（毎日1便）
●阪神／別府航路（毎日2便）
●阪神／小豆島・高松便（毎日1便）
●東神戸／日向（宮崎）フェリー（隔日1便）
★貸切船「こはく丸」もご利用下さい。

お問合せは　関西汽船
●大阪市北区梅田1－1・TEL(06)344-7031
●東京都中央区八重洲1－4－14・TEL(03)274-4273
及び、各地支店駐在員、旅行代理店へ



いらっしゃいませ
びわ湖国定公園
近江路の旅へ

収容　６００名様
浴場　１５０名様
設備　全館冷暖房
防災　諸設備完備
駐車場　バス20台

政府登録
国際観光旅館　びわ湖ツーリスト・ホテル
大津市におの浜3丁目2－25　電話　大津(0775)24－2321

瑞科

高原の四季・静かな憩い

蓼科高原、白樺湖へ登り、さらに女神湖へ出て「女神湖ホテル」に泊った。
シーズンオフの高原のホテルというのはいいものだ。歩いて一周三十分の女神湖。
『白樺が群生していて湖があって、しかも名前が女神湖でどうですか。教会を建てなさい。そこで結婚式をやるんです』
☆
「女神湖ホテル」から霧ケ峰をぬけて旧中仙道で山を下りた。木曽もいいが、山を下って追分までの中仙道の宿場の風情はわざとらしさが無くて、しかも世の中のうつりかわりを感じさせるところが好きだ。
永六輔
〈終りのない旅〉より

女神湖のほとり、山の湖のロマンをそのままに漂わせるようにたたずむ明るく清潔なホテル。

女神湖ホテル　〒384－23　長野県北佐久郡立科町芦田　電話　02675－5－6006
案内所　東京：千代田区内幸町２－２－２富国生命ビル　電話03－591－8844
大阪：北区小松原町２－４フコク生命　電話06－312－8988